



## ザリガニやカニがだっ皮するとき、どこからだっ皮が始まるの

### ザリガニは、頭とどう体の間から割れる

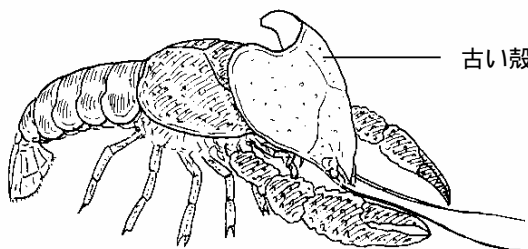
寒い冬でもないのに、ザリガニがえさを食べなくなり、じっとしているようになったら、だっ皮が近いでしょう。殻の頭部と、どう体の間がのびて、白く見えるようになったら、だっ皮が始まります。殻の頭部が、どう体とのつなぎ目で開き、新しい頭部が出てきて、長い触角や足が、殻から引き出されます。続いて、下半身が、古い殻から引き出されます。

だっ皮の前後には、ザリガニの胃に白いかたまりができています。これは胃石とよばれるもので、カルシウムのかたまりです。だっ皮が始まるころになると、殻をかたくしていたカルシウムが、ザリガニの血にとけ出し、胃石を作ります。だっ皮後、この胃石がとけてカルシウムになり、だっ皮したてのやわらかな殻に送られ、殻はかたくなっていきます。

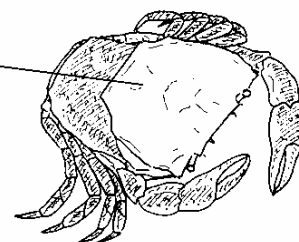
### カニのだっ皮は、殻の背中と腹側が割れる

カニも、体が大きくなるときや、傷がついたときなどに、だっ皮します。だっ皮すれば、ちぎれたはさみも新しいものが生え、殻もきれいなものに変わります。カニは、殻の背中と腹部の間が割れ、割れ目から後ろにはい出すようにして、だっ皮します。上半身はセーターをぬぐように、はさみのついた古い殻をぬぎ、下半身はズボンをぬぐような感じです。

ザリガニもカニも、だっ皮は、必ず、水の中で行われます。（監修・中山 周平）



ザリガニの脱皮



カニの脱皮

